

南面の広い庭から日がいっぱいに射し込む明るいリビング・ダイニング。大きな吹き抜けのあるリビングのコーナーには暖炉が設けられ、くつろぎの舞台装置は完璧です。

お子さんたちがのびのび育つ空間が欲しい、寒い冬を暖かく過ごせる家にしたい、というのが家づくりの基本条件でした。そこで、吹き抜けを設けて天井を高くすることで伸びやかな空間を確保。冬を快適に過ごすには当然、床暖房を計画しました。設計は大学の先輩である北村さんに依頼。ご夫妻と北村さんは学生時代からのオーケストラ仲間でもあります。ご夫妻は打楽器、北村さんはトランペット奏者です。そんな親しい間柄なので、家づくりのほうも時間をかけて納得のいくプランをじっくり検討することができました。

暖炉の熱を床暖房や給湯、さらに調理にも利用できるシステムを勧めたのも北村さんでした。奥さまは「暖炉の家に住めるなんて思わなかったわ!」と感激したそうです。

以前のマンション生活ではめったに人を招きませんでした。暖炉と床暖房のある新居では、オーケストラ仲間を始め人が集まる機会が増えました。そんな時は決まって奥さま得意のローストビーフが登場します。暖炉で火加減よろしく焼く係はご主人。火を囲みながら話もはずみます。3人の小さなお子さんたちも暖炉がお気に入り。時々、ママが焼いてくれる焼き芋に大喜びだそうです。

木の家と暖炉と床暖房

暖炉のある家に暮らせるなんて幸せ!

Part 2 東京都・古関さんのお宅

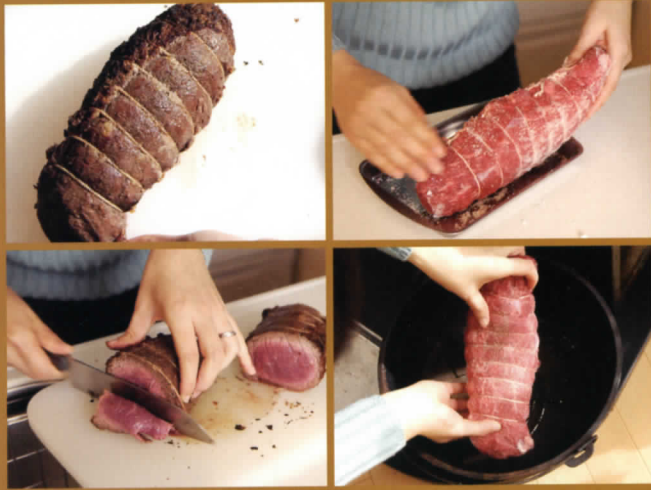


上●南側外観。実家を2世帯住宅に建て替える当初の計画は道路の問題で実現できず、建物のボリュームも限定されたが、南面する居室は明るく伸びやか。右●玄関床も温水暖房で温か。廊下の先はキッチン。



キッチンから暖炉のあるリビングを見る。リビングの吹き抜けが明るさと広がりを生み、小さなお子さんたちも自由に遊ぶ。





暖炉があればおいしい ローストビーフも簡単

ビーフに塩コショウして揉み込み、ダッチオーブンに入れれば、後は暖炉で焼くだけ。ただし、注意したいのは火加減。それさえ上手にできれば、極上のローストビーフが完成する。後は切ってお皿に盛りばいい。



打楽器が置かれた地下の音楽室。ご夫妻はここで心置きなく練習に励む。

子供たちがのびのび育って 欲しいから



リビングのコーナーに設けられた暖炉は、吹き抜けのおかげですっきり納まっている。



1階主寝室。自然の光と木の香に満ちたくつろぎの空間。



上●2階子供室は将来、男の子2人の個室として2室にする予定。左手の手すりの向こうは、玄関の吹き抜け。左●地下から階段室へと続く収納棚。



古関さん夫妻と唯典君(3歳)、碧ちゃん(1歳)。5歳の唯典君は幼稚園で不在。

DATA

家族構成●夫婦+子供3人
敷地面積●209.49㎡ (63.37坪)
地階面積●27.32㎡ (8.26坪)
1階面積●72.13㎡ (21.82坪)
2階面積●34.22㎡ (10.35坪)
延床面積●133.67㎡ (40.44坪)
構造●木造2階建+地下1階
竣工●2006年3月
床暖房●夜間電力利用システム+フレームアウト(暖炉)
富士プラント・アルコ様

設計・監理
北村設計・企画事務所/北村 和弘
東京都板橋区東新町2-2-7 フラットT206
Tel 03-5917-0777 Fax 03-5917-0778



北村設計・企画事務所
北村和弘(きたむら かずひろ)

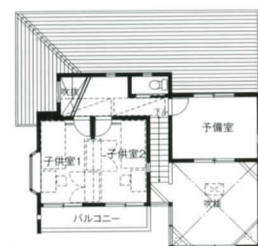
1957年東京生まれ。79年早稲田大学建築学科卒。間瀬巴代治設計事務所を経て90年北村設計事務所を設立。新交響楽団に所属し国内外で活動。音響に配慮した建築にも精通。



B1



1F



2F

床暖房設置箇所